

八幡平-岩手山縦走報告

3 日 目

2010 年 8 月 30 日(水) - 9 月 3 日(金)

M4 只左一也

M4 張 劉喆

9 月 30 日：東京→(東北道)→茶臼岳登山口→茶臼岳→八幡平→裏岩手連峰→大深山荘

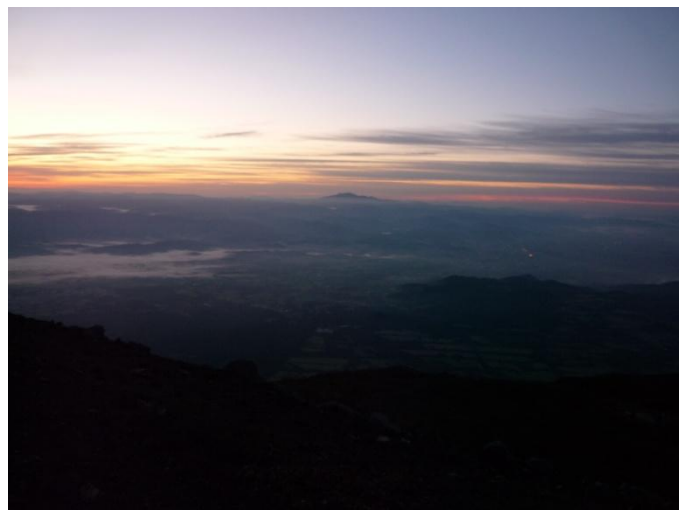
10 月 1 日：大深山荘→三つ石山→鬼ヶ城→不動平避難小屋

10 月 2 日：避難小屋→岩手山→焼走り登山口→(東北道)→松島→(東北道)→東京

3 日 目 (10月2日(土))

起床	03:00
不動平避難小屋	05:00 発
岩手山山頂	05:45 着 06:40 発
第一噴火口	08:50 着 10:10 発
焼走り登山口 (自転車)	11:40 着 11:50 発
交通センターバス停 (バス)	12:10 着 12:30 発
茶臼岳登山口 (車)	13:10 着 13:20 発
焼走り登山口(温泉) (車 松島経由)	13:50 着 14:30 発
本郷	0:00 着 (解散)
(歩行時間：約 4 時間 30 分)	

この日は、岩手山山頂で日の出を拝もうと、急いで支度をして出発するつもりが、いつもの通り私がぐずぐずして準備に手間取り、結局出発は 5 時になってしまった。小屋を出ると空が白み始めている。この日も素晴らしい天気である。火口壁の急斜面を 20 分も登ると火口の縁に出た。南東に早池峰が浮かんでいる。北上盆地(奥羽山脈と北上山地の間の盆地)を見下ろしながら、「お鉢」(火口の縁)を反時計回りに進む。大きな火口で、お鉢は 1 周するのに 1 時間以上かかる。ピークに着く前に日の出を迎えてしまったが、火口の東の縁にいたので、しっかりと拝むことができた。



夜明け前の早池峰山と北上盆地



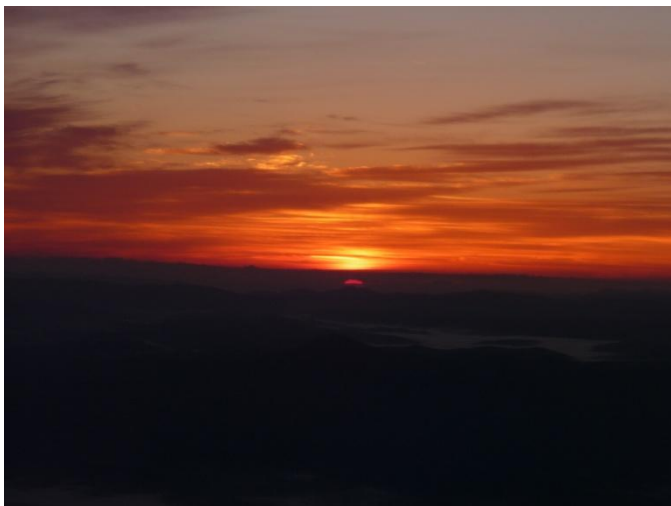
火口の縁を進む



向こうのピークが頂上



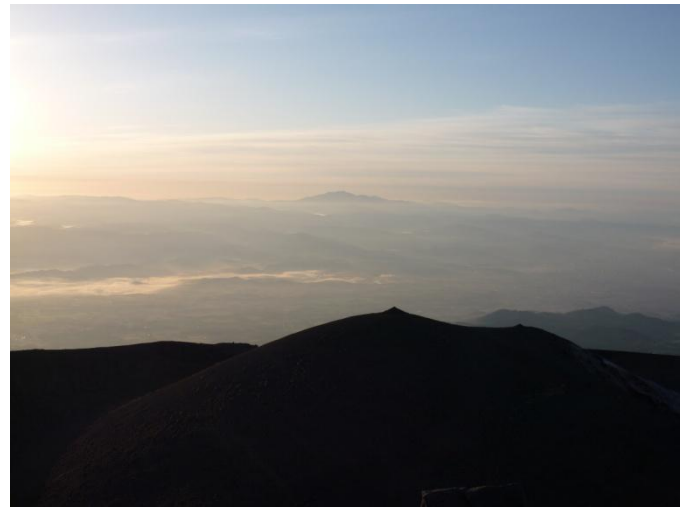
北上盆地



岩手山山頂(2038m)。奥羽山脈の最高地点でもある。

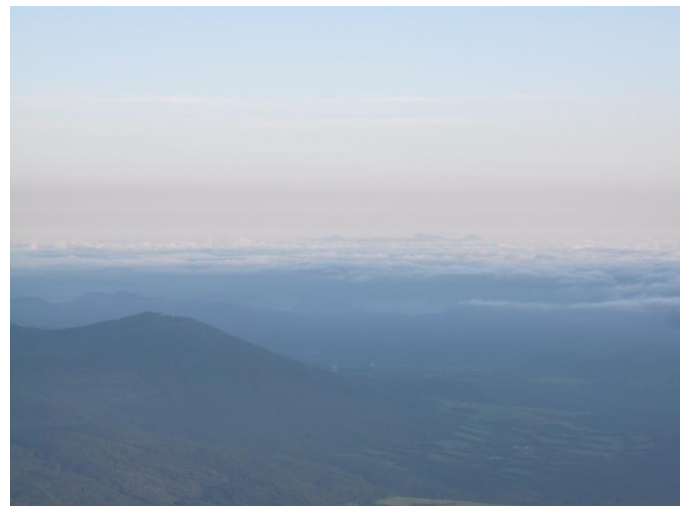
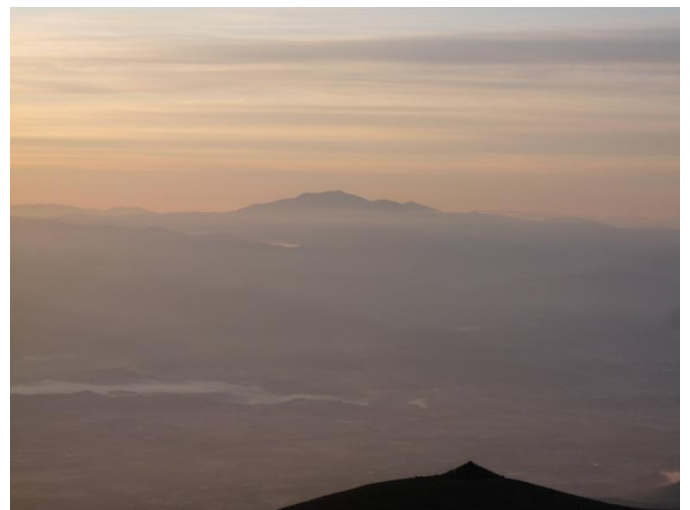


火口丘



早池峰。左下の雲がかかっている辺りが盛岡の市街地。

5 時 45 分、山頂に到着。すごい展望が待っていた。早池峰はもちろん、北の八甲田、岩木山、西に阿仁マタギで有名な森吉山、南には秋田駒ヶ岳や東北の日高と呼ばれる原始の山の和賀岳、焼石岳、そして、何よりも感激したのが、南西遥かかなたにくっきりと浮かぶ富士山のように美しい姿の鳥海山（鳥海山が見えるのは年に数えるほどしかなく、珍しいそうである）。目を凝らすと、秋田駒ヶ岳の左手に、月山まで見える。



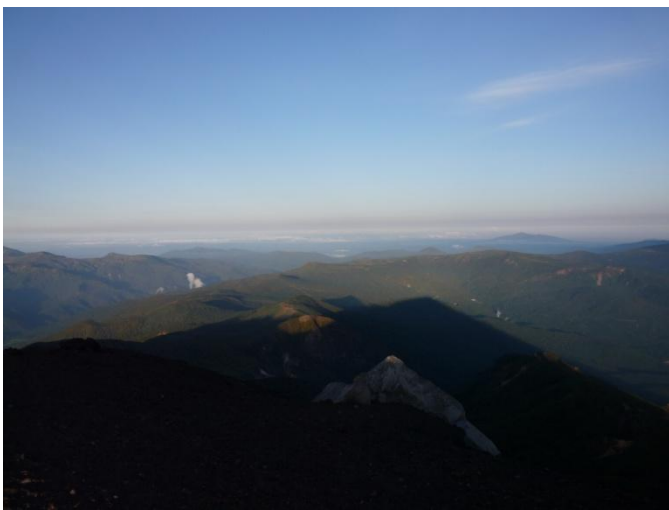
八甲田遠望（北）



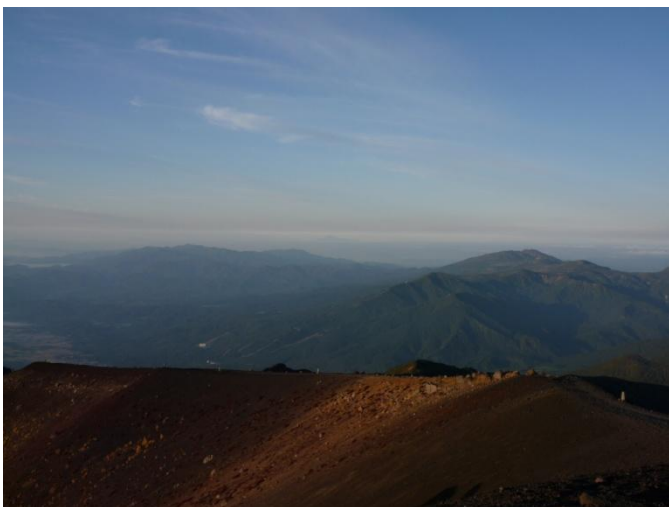
八幡平（北西）



鳥海山遠望。姿の美しい山である。



裏岩手連峰に岩手山の影がかかる。右遠くの山は、阿仁マタギで有名な森吉山。（西）



南西の眺め。右は秋田駒ヶ岳、左は和賀岳。その間、遙かかなたに鳥海山まで見える。

風が冷たく寒かったのだが、大展望に圧倒されて、防寒着を着るのも忘れて、写真を撮ったり景色を眺めていたりしたら、あっという間に1時間経ってしまった。もっとのんびりしたかったが、この日は下山したら、自転車でバス停まで走って、車を回収するためにバスに乗らなければならないので、そのバスの本数が1日に3本しかないので、仕方なく出発することにした。

お鉢から北東の方へ下って行くと、次第に植物が多くなり、平笠不動避難小屋に着いた。ここから道は東に折れ、岩手山の北斜面をトラバースするように焼走りへと下る。下って行くにつれ、下から上がって来る人たちとすれ違う。花火のような音が聞こえたので、運動会の合図の花火かと思ったら、岩手山東麓の自衛隊演習場で訓練をしているようだった。

左に見える、山の中腹から流れ出た真っ黒な溶岩流「焼走り溶岩流」がなかなかすごい。1719年に噴火した際の溶岩流なのだが、溶岩流の上に植物がまったく生えずに当時のそのままの状態を保っており、大変貴重ということで国の特別天然記念物に指定されている。この溶岩流の噴出口が開けていて眺めがよかったので、休憩することにした。1本目のバスには間に合いそうもなかったので、2本目のバスに合わせて、少しのんびりすることにした。

お湯を沸かしてコーヒーを入れ、姫神山や早池峰山、八幡平を眺めながらのんびりしていると、どんどん人が上がって来る。絶好の登山日和である。



岩手山から西に延びる屏風尾根の岩場



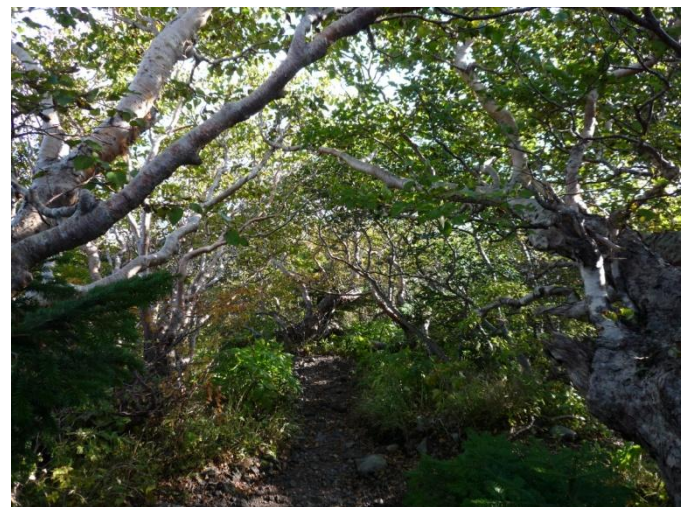
北西斜面を下る



岩手山を見上げる



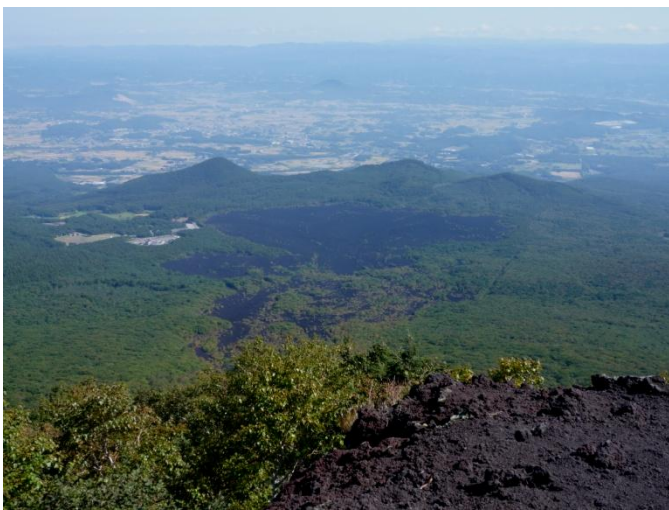
西の眺め。左は秋田駒ヶ岳。その左遠くに鳥海山。



平笠避難小屋からはダケカンバの美しい林の中を進む。



第一噴出口から岩手山山頂を見上げる。



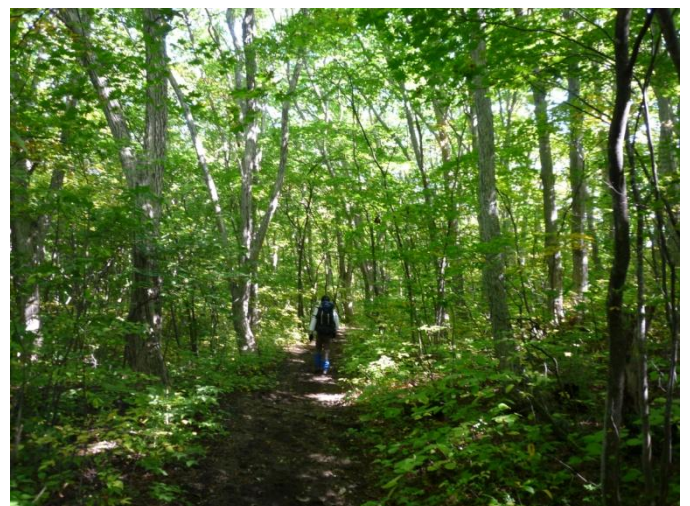
第一噴出口から焼走り溶岩流を、見下ろす。1719 年の噴火時のもので、国の特別天然記念物。



左は姫神山、右遠方は早池峰山。第一噴出口から。

1 時間ほど休憩して、出発。樹林帯の中をどんどん下って行くと次第に傾斜が緩くなり、焼走りの登山口に出た。その横にある日帰り温泉施設「焼走りの湯」に自転車を預かってもらっていた。そこで、張に私の荷物を預かってもらい、私は自転車に乗って、10 km ほど離れた八幡平行きのバスの出ている「岩手県北バス東八幡平交通センター」に向かう。ほとんど下りなので、快調に飛ばして、20 分ほどでバス停に着いてしまった。そこに自転車を止め、少し待ってバスに乗り、車を置いてある八幡平茶臼岳登山口で下車。車で焼走り温泉に向い、温泉に入り、張を乗せて帰路についた。時間が早いので途中松島にでも寄ろう、ということになり、松島に寄り道。比較的空いていた東北道を順調に南下し、本郷で張を降ろし、解散となった。

3 日間すべて好天に恵まれ、東北らしい秋山の素晴らしい景色を存分に楽しむことができた。





東八幡平交通センターでバスに乗る



焼走り温泉



茶臼岳登山口でバスを降り、車を回収、焼走り温泉に引き返す



私はこの折りたたみ自転車で 10 km 離れたバス停へ



途中、松島に寄り道